

松嶋夜話 卷之下 58

〔原文〕廿八日艤船欲往唐桑神社

〔訓読〕廿八日船を艤して唐桑の神社に往く

〔原文〕風冽雨荒

〔訓読〕風冽たく雨荒(す)さむ

〔原文〕不果

〔訓読〕果たさず

〔原文〕有偶成興矣

〔訓読〕偶成有りて興る

〔原文〕從者相將數十人

〔訓読〕從者相い將ゆ數十人

〔原文〕三千戒子悉歸真

〔訓読〕三千の戒子悉く真に歸す

〔原文〕今朝欲往唐桑社

〔訓読〕今朝唐桑の社に往んと欲す

〔原文〕投轄雨來止盪船

〔訓読〕轄を投げて、雨來たりて、船を盪ことを止む

〔原文〕此夕風雨晴

〔訓読〕此の夕、風雨晴る

〔原文〕殺曉發座船厨船二艘

〔訓読〕殺曉に、座船厨船二艘を發して

〔原文〕之于唐桑

〔訓読〕唐桑に之く

〔原文〕要著御崎

〔訓読〕御崎に著んと要め

〔原文〕風戾矣

〔訓読〕風戾る

〔原文〕轉帆船上于津本濱

〔訓読〕帆船を轉じて、津本濱に上がる

〔原文〕濱之村甲向出迎駕

〔訓読〕濱の村甲、向(さき)に出でて駕を迎え

〔原文〕導引御崎

〔訓読〕御崎に導引す

〔原文〕涉山岡三四里至于社麓

〔訓読〕山岡三四里を涉り、社麓に至る

〔原文〕別當桃葉軒良嚴院千手院接待

〔訓読〕別當、桃葉軒、良嚴院、千手院に接待す

〔原文〕余下乘立華表下

〔訓読〕余乗を下りて華表の下に立つ

※華表…― 中国で、宮殿・廟宇・陵墓の前に立てられる石柱。 2 神社の鳥居。

〔原文〕有額余之先所筆也

〔訓読〕額有りて、余の先に筆する所なり

〔原文〕扶杖登于本宮

〔訓読〕杖に扶せて本宮に登る

〔原文〕入于内殿捧幣丙香

〔訓読〕内殿に入りて、幣を捧げて香を丙(た)いて

〔原文〕祈禱國家拍手了

〔訓読〕國家を祈禱し、拍手了れば

〔原文〕桃葉軒接入我於神供所

〔訓読〕桃葉軒我を神の供する所に接入す

〔原文〕執贄供果設饗盡禮

〔訓読〕贄を執り果を供し、饗を設け禮を盡す

〔原文〕又氣仙沼兩八幡別當養法院般若院羽黒別當智福院各遣代僧

〔訓読〕又た氣仙沼の兩八幡の別當養法院、般若院、羽黒の別當の智福院各の代僧を遣はす

〔原文〕捧供容禮

〔訓読〕供を捧げて禮を容る

〔原文〕余一齋答謝起饗堂

〔訓読〕余一齋に答謝して饗堂に起く

〔原文〕兩別當導于前岡

〔訓読〕兩別當、前岡に導く

※前岡…地名？

〔原文〕郊野清廣如布青氊

〔訓読〕郊野清廣、青氊を布くが如し

〔原文〕余曳手於左右臨于巖畔

〔訓読〕余手を左右に曳きて巖畔に臨み

〔原文〕巖石中有二方池

〔訓読〕巖石の中に二つの方池有り

〔原文〕才三四間曰之陽沼陰沼

〔訓読〕才か三四の間、之を陽沼陰沼と曰ふ

〔原文〕爲神之身洗水

〔訓読〕神の身を洗う水と爲る

〔原文〕味之甘水也

〔訓読〕之を味わうに甘水なり

〔原文〕一點無鹹

〔訓読〕一點も鹹無し

〔原文〕四時曰水無増減

〔訓読〕四時水に増減無しと曰ふ

〔原文〕二沼外圍盡海水也

〔訓読〕二沼の外を圍むは盡く海水なり

〔原文〕其波打岸滔天

〔訓読〕其の波、岸を打ちて、天に滔（はび）こる

〔原文〕就中有沼

〔訓読〕中に就きて沼有り

〔原文〕神之所爲也

〔訓読〕神の爲す所なり

〔原文〕不可思議

〔訓読〕不可思議なり

〔原文〕又南面巖岳下有磐陀石

〔訓読〕又た南面の巖岳の下に磐陀石有り

〔原文〕深廣數十丈

〔訓読〕深廣、數十丈

〔原文〕傳言

〔訓読〕傳へて言う

〔原文〕昔有船舶八艘之難

〔訓読〕昔、船舶八艘の難有り

〔原文〕神力援之登舶於此磐石之上

〔訓読〕神力之を援け、舶を此の磐石の上に登る

〔原文〕從是曰八艘石

〔訓読〕是より八艘石と曰ふ

〔原文〕又或以音樂恒此鳴曰八調石云

〔訓読〕又た或いは音樂が此に鳴くを以て、八調石と曰ふと云う

〔原文〕有種種名宕

〔訓読〕種種の名宕有り

〔原文〕余擲杖端坐石上目顧四方

〔訓読〕余杖を擲（なげうち）て、石上に端坐して、四方を目顧す

〔原文〕覺於神遊補陀巖上之天台石橋

〔訓読〕補陀巖上に神遊し、天台の石橋に之くことを覺ゆ

〔原文〕時桃葉軒携茶果來

〔訓読〕時に桃葉軒に茶果を携えて來たる

〔原文〕余舉盞一啜

〔訓読〕余盞を舉げて一啜す

〔原文〕兩脇習習

〔訓読〕兩脇習習として

〔原文〕如羽化而登仙

〔訓読〕羽化して登仙するが如し

〔原文〕余乘興歌曰

〔訓読〕余興に乗って歌って曰く

〔原文〕白浪滔天千萬岳

〔訓読〕白浪、滔天、千萬岳

〔原文〕登仙羽化氣仙鄉

〔訓読〕登仙羽化す、氣仙の郷

〔原文〕眼前顯露補陀洛

〔訓読〕眼前に補陀洛顯露す

※補陀洛：観音菩薩の降臨する靈場であり、観音菩薩の降り立つとされる伝説上の山である。

〔原文〕不隔唐桑與大唐

〔訓読〕唐桑と大唐を隔てず

〔原文〕意而此山彼南海補陀洛山乎哉

〔訓読〕意ふに、此の山は彼の南海の補陀洛山とならんか

〔原文〕本邦鹽竈唐桑二所一國二座鎮守

〔訓読〕本邦の鹽竈と唐桑の二所は一國二座の鎮守なり

〔原文〕稱太田命庶民攸祈穀云

〔訓読〕太田の命と稱して、庶民穀を祈る攸と云う